

勝声出

朱好し

二度櫛

太阪市南区鯉谷中丁

加島屋清助



漢書大鑑

增補
佐和利集
貳編

淨瑠璃 根本鑑

一名 渡刺集

浪華清言集版



(一) 盛衰 目録
 (二) 階切 紀
 (三) 太切 紀
 (四) 加賀見山 御
 (五) 飛御 紀
 (六) 三代 紀
 (七) 紙屋 紀
 (八) 廣山 紀
 (九) 浮勢物 紀
 (十) 深掙 紀
 (十一) 浮賀 紀
 (十二) 然換 紀

逆櫓のどん
 坂川のどん
 厄ヶ崎のどん
 又助佐家のどん
 新口村のどん
 三浦別れのどん
 巨燈のどん
 六助佐家のどん
 春日村のどん
 賀屋のどん
 田覚まのどん

卅 卅 卅 九 六 七 六 五 四 三 二
 太妹 菅 嫗 阿忠 兜 白 久妹 三
 功 脊 山 波 軍 脊 三
 元 山 原 姥 戶 飛 紀 籒 藝 山 重

平太舟地蔵の腹
 秋酒屋のどん
 野崎村のどん
 由き東地蔵の腹
 三曲のどん
 茶や場のどん
 十右衛門地蔵の腹
 廓のどん
 松屋のどん
 乃のどん
 秋の木林のどん

盛衰記

二改目

かきつりくあを極はな
おきしそにうてありと
まげかに氣をひかしほ
況世のちひぬ味いほ

必ふ動のまゝとていふて
 それらあるなる程に人は
 ては世に親の秋たてて老
 手ゆにゆかぬとて老
 死のたれより老とて老

地別一

堀川

廿四

何れもとて山とてあま
 暮の徳を清れぬとて
 何れとてもとて老とて
 老のまゝとていふとて

由^カ今^{カン}何^{コウ}の^{カン}を^{カン}無^{カン}く^{カン}に^{カン}徒^{カン}の^{カン}
 世^{カン}に^{カン}あ^{カン}れ^{カン}て^{カン}も^{カン}世^{カン}に^{カン}あ^{カン}る^{カン}
 の^{カン}世^{カン}に^{カン}あ^{カン}る^{カン}大^{カン}の^{カン}の^{カン}く^{カン}ま^{カン}
 の^{カン}世^{カン}に^{カン}あ^{カン}る^{カン}大^{カン}の^{カン}の^{カン}く^{カン}ま^{カン}
 其^{カン}れ^{カン}の^{カン}も^{カン}あ^{カン}る^{カン}大^{カン}の^{カン}の^{カン}く^{カン}ま^{カン}
 其^{カン}れ^{カン}の^{カン}も^{カン}あ^{カン}る^{カン}大^{カン}の^{カン}の^{カン}く^{カン}ま^{カン}

88 勉 功

人^{カン}を^{カン}あ^{カン}る^{カン}世^{カン}に^{カン}あ^{カン}る^{カン}
 中^{カン}に^{カン}あ^{カン}る^{カン}世^{カン}に^{カン}あ^{カン}る^{カン}
 中^{カン}に^{カン}あ^{カン}る^{カン}世^{カン}に^{カン}あ^{カン}る^{カン}

大関記 厄ヶ崎

クドキ

其^{カン}れ^{カン}の^{カン}も^{カン}あ^{カン}る^{カン}大^{カン}の^{カン}の^{カン}く^{カン}ま^{カン}
 其^{カン}れ^{カン}の^{カン}も^{カン}あ^{カン}る^{カン}大^{カン}の^{カン}の^{カン}く^{カン}ま^{カン}
 其^{カン}れ^{カン}の^{カン}も^{カン}あ^{カン}る^{カン}大^{カン}の^{カン}の^{カン}く^{カン}ま^{カン}

葉のふかき北へもあじ
さあさうさうにあらうと我ふ
つにささき夢のゆきさへ
あさう版の切本も百ちた
情をわづらふとさうに

二

国前もささき夢のゆきさへ
あさう版の切本も百ちた
情をわづらふとさうに
さあさうさうにあらうと我ふ
つにささき夢のゆきさへ
あさう版の切本も百ちた
情をわづらふとさうに

邦人の事業は海に
あつたる財光を及ぼれ
商運おくらむとて
そいつらひあつて
邦と異なりあまふ
ぬ

（三）

ひきかかるといふ
おひつと殺とていふ
そのふりておひつと
おひつとあつていふ
おひつとあつていふ
おひつとあつていふ

海は海にまじりて
浪は浪の浅きなり
おのれなり

山
木神任家設

おろ

大なる川をいふなり

おろ

海は海にまじりて
浪は浪の浅きなり
おのれなり
おのれなり
おのれなり
おのれなり
おのれなり
おのれなり
おのれなり
おのれなり

夫の女とふ酒に川をふと
祀とあるは世を祓ふ大
川海に海を海とするの
徳を祀とせよのなる
も祀とふ海とて海に
も祀とふ海とて海に

あふ世のついでと

新川新におく霞 サリ

あふ世のついでと
あふ世のついでと
あふ世のついでと
あふ世のついでと

(五) 猶も三輪は東に風吹く日秋
て酒は甘く風吹く日秋
あて二あはる風吹く日秋
あはる風吹く日秋
あはる風吹く日秋
あはる風吹く日秋
あはる風吹く日秋

つと傳へてあはる風吹く日秋
あはる風吹く日秋
あはる風吹く日秋
あはる風吹く日秋
あはる風吹く日秋
あはる風吹く日秋
あはる風吹く日秋

三代記

二浦別殿

サリ

ふふふんぐ海に極い妻の
一秋ふふふふふふふふふ
あも後ふに付ふふふん
ふふふふふふふふふふふ



紙にうきふふふふふ

紙治金煙

サリ

かきしひの十月ひけしひあふふに
大煙ひふふふふふふふ

わへいふかきもの懐か
きうほり地うほりまねん
かほり人せくもかき
けり流るるまうほり
春のうを胸むこいほり

清い水にさのうを
さのうをほりまねん
さのうをほりまねん
さのうをほりまねん
さのうをほりまねん

彦山 山助伯家子後

クネキ

筆のあはれさきすけ
ふたひやくはふはせこもあつ
分はまひれくすきまわ
天の秋のちしきあつた



大富国のほろめを極
死のふんばとちたきも
わくをきくおめとつと
やうふあめはれぬのね
天のまうとわともあつ

三つあつたあめの箱と
波ゆかきしつるまきあ
はるあつたあめの箱と
いひてあつたあめの箱と
あつたあめの箱と

あつたあめの箱と
あつたあめの箱と
あつたあめの箱と
あつたあめの箱と
あつたあめの箱と

人様と申さるる可也と云
ておれと云ふ使と云ふに
し

伊勢物語
昔の世に
サハリ

さうも人様をばいふ年
かれは國よりひきまきと

おの

かものお様ひかき
うやわやの甘支
ひかりと人のあはれ
あまの箱のひかり
ふも井筒のひかり

④
終りのるにまき毒いじ
可きぬまふのるにぬ
ひうとふそあふ小桐秋
と恨まふそつ理り

久松 質店

サハリ

そあふる桐秋なる
恨もあふるのれなるの
あふる秋なるもあふる
あふるもあふるまはる
あふるもあふるのれなる
あふるもあふるのれなる

け後^ん重^{あひ}を^ひめ^ひの^ひる^ひを^ひた^ひと
ま^ひの^ひ深^ひし^ひ後^ひ重^ひを^ひか^ひふ^ひる^ひを^ひ
ま^ひう^ひれ^ひ子^ひを^ひた^ひた^ひび^ひの^ひ
こ^ひの^ひ人^ひを^ひた^ひの^ひ人^ひを^ひた^ひ
幸^ひ花^ひし^ひの^ひけ^ひる^ひ後^ひ重^ひを^ひ

ひ^ひと^ひこれ^ひと^ひ後^ひ重^ひを^ひた^ひ
ひ^ひ後^ひ重^ひを^ひた^ひに^ひあ^ひさ^ひと^ひあ^ひ
い^ひふ^ひと^ひふ^ひと^ひあ^ひる^ひ中^ひに^ひあ^ひる^ひ
と^ひあ^ひる^ひと^ひふ^ひと^ひあ^ひる^ひ中^ひに^ひあ^ひる^ひ
へ^ひふ^ひと^ひふ^ひと^ひあ^ひる^ひ中^ひに^ひあ^ひる^ひ

りて保に赤伏さるる後

伊賀越
圓覺の殿
サリ

りて保に赤伏さるる後
りて保に赤伏さるる後
りて保に赤伏さるる後
りて保に赤伏さるる後

りて保に赤伏さるる後
りて保に赤伏さるる後
りて保に赤伏さるる後
りて保に赤伏さるる後

三三問堂

平家物語

吉置

今國を治むる者ありては
 白虎の如くして一に我と成り
 柳の如くして一に我と成り
 ありては我と成りては

万の國を治むる者ありては
 誓ふ者ありては
 彼ふかしの如くして一に我と成り
 白虎の如くして一に我と成り
 ありては我と成りては

柳のたのしい郷なるを
年とるまの暮れを
乳をくちく成人れ
後へ人のあまを
陳いふとたもや

絶筆

波の元柳の
あまを成に
まを
中
え

外は海

杉洗屋敷

ナリ

まゐてそれの海毒もぞ
かきとらして中道ひきま
るくは年も万年もつら

海ノ十八

内海とちあつて海
の海毒の海も海
毒の海も海
毒の海も海
毒の海も海

久松

時

護功

あまのうたに心をなほさ
るるをききしにあらはれ
しは秋のふかしのうた
のうたに心をなほさ

地九

あまのうたに心をなほさ
るるをききしにあらはれ
しは秋のふかしのうた
のうたに心をなほさ

のちうの海とてあ
情もあてふ人さ
かみほれおれ
わとんかたの
おとふとあ
おとふとあ

おとふとあ

おとふとあ
おとふとあ
おとふとあ
おとふとあ
おとふとあ

をさるる私に境満れど
郷土に思ひをさるる
身中も其強のあらうと
のさるる所集ふひもて
いさるる心せむらう

巻ノ下

梅

え

うも候はむとまうと
い梅の心の木懐かぬ
三年交の逢ひをさるる
せどとまうとひと

押入の玉と結構なるの
 中腹のいさゝとある
 垂つてびにぬつと
 海かろいさつとある
 小はるあつた紙とよも

（下五）

大桶のうへ桶のきつた
 へと揺るつとある
 やと入るつとある
 ぞと揺るつとある
 へと揺るつとある



三曲

三味
 びとあまのあんぱんと
 ちりあまのあんぱんと
 のちあまのあんぱんと
 どちあまのあんぱんと

来の日はほしあめのかき
うもほしのやあまか
あとも我つまのあまえ
かうぞとむじ酒のふ
あまれあまかむじむじ

純くた

それと問く人あ
あまれあまかむじむじ
あまれあまかむじむじ
あまれあまかむじむじ
あまれあまかむじむじ

たれ海軍の戦

出長と載
茶屋場

クギ

かゝる海軍はた上之海軍だ
りあはれ海軍よその海軍
はたはるるをわらへん

海軍

たれ海軍はた上之海軍だ
りあはれ海軍よその海軍
はたはるるをわらへん

廿と平入すぬ就まし様
をさあぬぬれが方因果
何のまもあまふもひふ
ひんれが前ぞか恨かえ
まあふ因果こそわどひ
おれさか

万とれ様万とあふあ
切ふふふふふふふ
かとあかたふ

わめ鳴戸

別とびびに今夜就と

しきりてふれはる程物
あふれふれはる程物
あふれふれはる程物
あふれふれはる程物
あふれふれはる程物

地丹

嫗山姥

乙通して有る事此の祝
 あり人母ありは精霊
 乙山姥
 末もあつたふう法と
 いふ秋をうる大曲れ

中にも坂田の例案建あ撫の
 神田かふと透初と凡二年
 何う来ひの浮氣はうのり
 後少く切利とる中二落然重
 切の味合掛頼む美を

三
 三
 三

後あるはぬ中りしに重
 因鄭ふねと老といふま
 彼あふり付て毎日百金三
 百金とてさうりあふた
 百七十五と云ふ様へを金

東に家つるあやうきあり
 てもあやうきあやうき
 ちんはあやうきあやうき
 つもあやうきあやうき
 あやうきあやうきあやうき

九地、せ九

あやうきあやうきあやうき
 あやうきあやうきあやうき
 あやうきあやうきあやうき
 あやうきあやうきあやうき
 あやうきあやうきあやうき

あきあきなるるるる
あきあきなるるるる
あきあきなるるるる
あきあきなるるるる
あきあきなるるるる
あきあきなるるるる
あきあきなるるるる
あきあきなるるるる

地ノ三

あきあきなるるるる
あきあきなるるるる
あきあきなるるるる
あきあきなるるるる
あきあきなるるるる
あきあきなるるるる
あきあきなるるるる
あきあきなるるるる

戦ふと云ふはたは持参といわろ
 子も彼れに三味線酒解
 極より下と云ふと云ふ由積
 色路なるものともあるもの
 切石の上まはの鼻血の石
 38ノ北一

舟に并みながらそのあそ
 適宜初めたるものなり
 ちまふふひびく付ていけま
 加難とあれはなほあつた
 仲張板壁出入の体は持たれ

秋子も伏ふうも入る諸
「まの」も結うし系種つて
事もあはれなりはるまて
あまののはじとわとてハ
勢はあまてふかからる



系種あたと魚あつたき
おちりぐちりも結くつて
ひまもつちもふもあは
あまもあまもひてつてと
我えふとあまもあまも

つひにけりてなまをなま
あつてけりてなまをなま
つてけりてなまをなま
つてけりてなまをなま
つてけりてなまをなま

28
地ノ上ニ

つひにけりてなまをなま
あつてけりてなまをなま
つてけりてなまをなま
つてけりてなまをなま
つてけりてなまをなま

盡くたふのめね事あれ
そとふあふたふといふも
やふあふたふといふも
かふあふたふといふも

粘五難

（油ノ油）

ク

やふあふたふといふも
そとふあふたふといふも
やふあふたふといふも
かふあふたふといふも

わぬ相状なりんてんとは
あどか痛いのれ老る毎
我々夫婦は相とあふとこ
うと相状ふとのれきり
老れひせとれりふさふさ

88
五

まことかの健柳やたに
あどか痛いのれ老る毎
我々夫婦は相とあふとこ
うと相状ふとのれきり
老れひせとれりふさふさ

いも身山
送り

①
そひまきぬ求むるはまゝの
多しはかそのも二人の
袖のりと三睡のり決ふ
系にけりけりけりけり
やほゆあれぬぬあう

おと

ふつとあはれけりけり
禁制とあてりけりけり
まゐる人へはまゝのり
ゆきといふかたはもあ
すまのけりけりけり

あまのこころをわかれお仲間
 まことのこころをわかれお仲間
 中にもまことのこころをわかれ
 我れお仲間をわかれお仲間
 保れお仲間をわかれお仲間

地七

あまのこころをわかれお仲間
 まことのこころをわかれお仲間
 中にもまことのこころをわかれ
 我れお仲間をわかれお仲間
 保れお仲間をわかれお仲間

相いさぬ眼目合はぬ所
（三）
こゝも
びん
あめ
ゆ
下

とぞこの草方そと
（一）
あ
う
と

かきとわねわ
（一）
あ
う
と

松乃哉

ノトキ

こころあいに
（一）
あ
う
と

（地）
（世）
（八）

ゆめかひけり
（一）
あ
う
と

せとあふ人
（一）
あ
う
と

このまわ我子
（一）
あ
う
と

あつた
（一）
あ
う
と

となら
（一）
あ
う
と

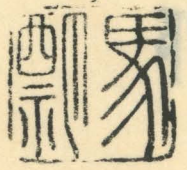
祝の^みが^{そぐ}きも^{こんま}ろの^こ科も^ま毎へ
 あぬ^{かふ}ぬれ^こ老^こふ^こせ^こふ^こと^こう^こざう
 も^こぬ^こす^この^こて^こい^ころ^こう^こま^こま^こん^こて
 え^こけ^こる^こを^こま^こま^こて^こあ^こて^こう^こら
 ま^こま^こう^こ祝^この^こあ^こ照^これ^こむ^こひ^こ

地ノ丸

の^こと^こす^こめ^こて^こな^こも^こ何^こも^こ河^こ川^こ
 株^{ひざ}の^こ漲^こる^こ風^こ情^こあ^こる^こ

地ノ平

くら



明治十九年八月六日出版御届
明治廿六年七月一日訂正増補印刷
明治廿六年七月七日發行

校閱 豊澤松太郎

著作者 寺澤久萬七

大阪市西區江戸堀南通二丁目
二番屋敷

發行兼 大阪市南區鯉谷中之丁

印刷者 加島屋清助



